

(仮称) 藤沢市文化財保存活用地域計画の策定について（中間報告）

1 趣旨

本市には、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な文化財が数多く存在しますが、文化財を取り巻く環境は非常に厳しく、文化財の保存にかかる費用負担や扱い手不足など、さまざまな喫緊の課題に直面しています。

そこで、文化財の保存と活用に関する課題解決を図り、総合的・一体的な取組を推進するため、新たに「(仮称) 藤沢市文化財保存活用地域計画」（以下「本計画」とする。）を策定するものです。

2 本計画の概要

(1) 本計画の位置付け

本計画は、文化財保護法第183条の3に基づいた法定計画であり、本市における文化財の保存と活用に関する中・長期的な基本方針を定めるマスタープランと短期的に実施するアクションプランの両方の役割を担います。計画の策定にあたっては、神奈川県文化財保存活用大綱を勘案するとともに、「藤沢市市政運営の総合指針2028」や「藤沢市教育振興基本計画」、その他関連計画とも整合性を図ります。

(2) 計画期間

令和8年度～令和15年度（8年間）



(3) 将来像

藤沢郷土資源を未来へ ～藤沢郷土資源をつないで みんながつながるまち～

藤沢郷土資源を未来へつなぎ、効果的な保存・活用を図るために、「藤沢市市政運営の総合指針2028」におけるまちづくりテーマのひとつ「未来を見据えてみんなで進める」を踏まえ、藤沢郷土資源の保存・活用に関する将来像を設定します。

(4) 基本目標

【基本目標 1】 しる～藤沢郷土資源を知り、魅力を伝える～

藤沢郷土資源の継続的な調査、研究の強化を図り、情報発信を多く行うこと
で、藤沢郷土資源の魅力を伝える活動を推進します。

【基本目標 2】 まもる～藤沢郷土資源を守り、未来へつなげる～

藤沢郷土資源を適切に管理し、未来へつなげるための持続可能な体制づくり
を推進します。

【基本目標 3】 いかす～藤沢郷土資源を活かし、みんながつながる～

藤沢郷土資源を活かし、さまざまな担い手がつながることで、より一層の活用
やにぎわいを創出します。

(5) 方針及び主な取組

本計画における将来像や基本目標を実現するため、13の方針を定め、取組を進め
ていきます。

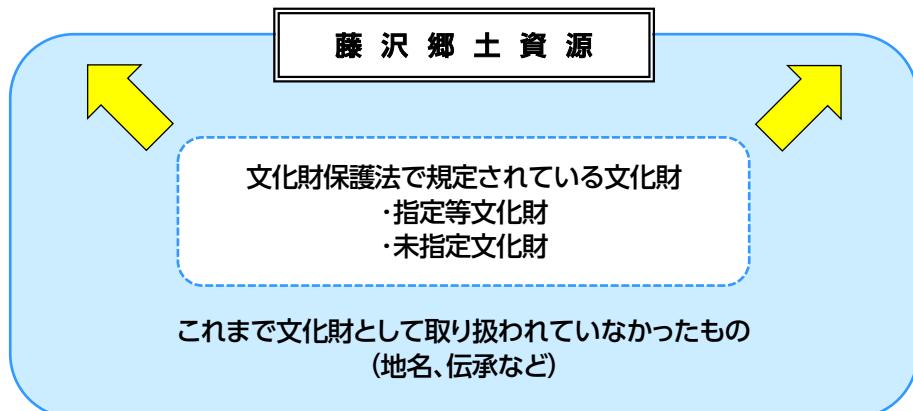
基本目標	方針	主な取組
「藤沢郷土資源を知り、 魅力を伝える」	1 藤沢郷土資源の把握調査を推進する	・把握調査の手法の検討 ・新たな藤沢郷土資源の把握
	2 藤沢郷土資源の現状を把握する	・継続的な現況調査の実施 ・所有者等へのアンケート調査の実施
	3 収蔵資料の整理を推進する	・継続的な資料整理 ・データベースの構築
	4 藤沢郷土資源に関する情報発信を 強化する	・SNSによる情報発信の強化 ・講座・講演会等の開催
「藤沢郷土資源を守り、 未来へつなげる」	5 藤沢郷土資源の保存・管理を推進する	・指定・登録の推進 ・文化財保護法等に係る手続きの周知
	6 藤沢郷土資源の所有者等の負担軽減 を図る	・国・県等による助成制度の活用 ・新たな支援策の検討
	7 藤沢郷土資源の収蔵環境を整備する	・新たな収蔵庫の整備
	8 藤沢郷土資源の防火・防災体制を 強化する	・防火対策ガイドラインの作成 ・災害発生時の体制の構築
	9 藤沢郷土資源の新たな担い手を 育成する	・小学校での出前授業等の実施 ・無形の民俗文化財の活動支援
「藤沢郷土資源を活かし、 みんながつながる」	10 藤沢郷土資源を活用した展示を 推進する	・藤沢郷土資源を活用した展示の実施 ・新たな展示方法の検討
	11 歴史的建造物の適切な活用を 推進する	・歴史的建造物の活用 ・保存活用計画の作成支援
	12 藤沢郷土資源を活用したにぎわいを 創出する	・藤沢市ふじさわ宿交流館の運営 ・観光誘客の強化
	13 藤沢郷土資源に関する連携を 強化する	・文化財フォーラムの開催 ・近隣自治体等との連携強化

3 本計画の特徴

(1) 対象文化財の拡大「藤沢郷土資源」

藤沢市域の歴史を正しく理解するためには、文化財保護法で規定されている指定や未指定等の文化財だけでなく、これまで文化財として捉えられてこなかった地名や伝承なども必要となることがあります。

本計画では、これらの「藤沢市域の歴史を正しく理解するうえで欠かせない情報を持つもの」を「藤沢郷土資源」と定義し、保存・活用の対象を拡大します。



(2) 藤沢らしさを構成する「歴史文化の特徴」

歴史文化の特徴とは、多様な文化財とそれらを生み育んだ自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景等を総体的に把握した概念であり、藤沢らしさを構成するものです。歴史文化の特徴を理解することで、本市の特徴を活かした藤沢郷土資源の継承につなげていきます。

歴史文化の特徴	歴史文化の特徴を表すテーマ
水が造りあげた大地のかたち ～地形を巧みに利用した人々の営み～	台地、水源、谷戸、集落遺跡
湘南の海と砂丘 ～相模湾がもたらした多彩な恵み～	海、砂丘、江の島、景観
信仰が集めた人と物 ～願いがもたらした藤沢の文化～	信仰、社寺、伝承、祭り
藤沢を形作った陸の道・海の道 ～東海道とさまざまな道が呼び込んだ発展～	東海道、江の島道、海路、鉄道
さまざまな風土によって生み出された多様な生業 ～地域色豊かな藤沢～	風土、生業

(3) 藤沢郷土資源をつなぐ「ふじさわ歴史ストーリー」

歴史文化の特徴に基づいて、藤沢郷土資源を一定のまとまりとして捉えたものを「ふじさわ歴史ストーリー」と定義します。

藤沢郷土資源にストーリー性を持たせることで、これまで把握できていなかった価値や魅力を創出し、新たな保存・活用の取組につなげていきます。

ふじさわ歴史ストーリー	構成する藤沢郷土資源の例
藤沢を駆けた武士たち	大庭城跡、「城下」等の地名、社寺
信仰と観光の島 江の島	江ノ島、江の島を題材とした浮世絵、岩屋
旅人と商人でぎわうまち 藤沢宿	清淨光寺(遊行寺)、小栗判官伝説、東海道
日々の営みと人々の祈り	相模のさら踊り、祭りばやし、人形山車

(4) 「(仮称) 藤沢市藤沢郷土資源保存活用推進協議会」の設置

(仮称) 藤沢市藤沢郷土資源保存活用推進協議会を新たに設置し、藤沢郷土資源の保存・活用に向けた推進体制を強化するとともに、協議会を構成する行政・所有者等・市民・関係団体・教育機関等の連携強化や情報共有を図ります。

4 (仮称) 藤沢市文化財保存活用地域計画(素案) 資料2のとおり

5 本計画策定に向けたこれまでの取組及び今後の予定

令和6～8年度	藤沢市文化財保存活用地域計画策定協議会の開催 藤沢市文化財保護委員会の開催 文化庁との協議
令和6年 9～10月	アンケート調査の実施
12月	ワークショップの開催
令和7年 7月	ワークショップの開催
9月	文化庁調査官による視察
12月	12月市議会定例会に「(仮称) 藤沢市文化財保存活用地域計画」について素案の報告
12月～	パブリックコメントの実施(12月10日～1月8日)
令和8年 2月	2月市議会定例会に「(仮称) 藤沢市文化財保存活用地域計画」について最終報告
4～6月	認定手続き・関係省庁との調整等(計画内容が変更になる場合あり)
7月	文化庁による認定

以上

(事務担当 生涯学習部郷土歴史課)